



登米市産業振興会設立総会

企業連携で市の産業を活性化

旧町域ごとにあった企業振興組織と登米地区工業会を一元化し、市の産業活性化を目指す「登米市産業振興会」が設立され、6月7日にホテルサンシャイン佐沼で総会が開かれました。会長には(有)迫生コンの渡邊芳夫社長が就任。人材育成や経営基盤強化を目的としたパソコン研修会や各種セミナーなどを開催します。

林野火災発生に備え合同訓練

山火事が多く発生する時期を迎え、市消防本部と宮城県防災航空隊との合同による上空指揮訓練が5月25日、東和町で実施されました。訓練は毎年行われているもので、今年は嵯峨立方面の山林から火災が発生したと想定。消防本部から県へ防災ヘリコプターを要請し、上空から地上の消防隊を誘導する訓練を行いました。



農業を担う認定農業者が連携

認定農業者の情報交換と連携を通して、農業経営発展、地域農業振興を目的に「登米市認定農業者連絡協議会」が設立され、5月25日、ホテルニューグランヴィアで総会が開かれました。来賓や代議員ら約70人が出席。会長には高橋幸三さん(迫町)が就任しました。市内の認定農業者は851経営体です(平成18年3月末現在)。

気持ちを込めておいしいお米に

南方小で毎年恒例となったマリ共和国支援米の田植えが5月26日、学校近くの水田で行われ、5年生44人が参加しました。南方水稻部会長の久保芳彦さんとPTA会長の阿部善文さんが、まっすぐ植える方法や転ばないコツなどを指導。児童たちは「ヌルヌル感が面白い」などと泥の感触を楽しみながら苗を丁寧に植えました。



14種目の各レースで熱戦が繰り広げられました

第15回河北レガッタ2000(河北新報社、東北放送、宮城県ボート協会、登米市、市教育委員会主催)が5月19日から21日の3日間、長沼ボート場で開催されました。

長沼ボートコースは、全国でも4カ所しかない国際A級コースの一つ。大会初日の早朝には、全国各地から集まる選手たちをきれいな会場で迎えた。北方小のスポーツ少年団野球チームの児童と保護者らが、会場周辺の清掃奉仕作業をしました。競技には、地元佐沼中や佐沼高、県内チームのほか、福島、新潟、静岡などから68クルーが参加。「中学」「一般大学高校」「壮年」の男女14種目の各レースで熱戦が繰り広げられました。上位入賞選手には、登米市産米がプレゼントされました。

力強いこぎで熱戦を展開

長沼で河北レガッタ2000



上位入賞者には表彰状やメダルのほか登米市産米が贈られました

山々の美しい自然を満喫

豊里で登山のつどい



ブナ林などの新緑に囲まれた山々を登山した参加者

「第19回豊里地区市民登山のつどい」(豊里公民館主催)が6月4日、鬼首荒雄岳で開催され、親子連れなど地区住民63人が参加しました。荒雄岳は標高984メートル、カドデラ地形で約150種の高

山植物が見られるため、シーズンになると多くの登山客が訪れます。この日は天候にも恵まれ、参加者はブナ林などの新緑に囲まれた山々の美しい自然を眺めながら、和気あいあいと登山を楽しみました。山のふもとから出発して約2時間かけて山頂に到着。その後、昼食を取りながら、登りきった感想や体の疲労具合などを話し合い交流しました。参加者は「山頂に向かう途中で見つけた野草や鳥の声などに癒されながら登山できた」と話していました。

色鮮やかな花菖蒲が競演

南方で花菖蒲まつり

「みなみかた花菖蒲まつり」が南方花菖蒲の郷公園で6月17日から始まり、7月6日まで開催しています。園内には、300種、80万本の花菖蒲が咲き誇り、日本庭園と野外彫刻の美しさを引き立てています。開園式が行われた17日と、日曜日の18日には、約2000人が来園。会場内に設置された特設ステージでは、郷土

芸能や和太鼓演奏などのイベントが催されました。また、地元農家が栽培した新鮮野菜やもっこりニラなどの農産物、もっこりラーメンや漬物などの特産品も販売。多くの人たちが行列をつくり、買い求めていました。園内にある「牛トピア」では、南方産仙台牛のステーキも味わえるなど、一日満喫できるとなっています。



色鮮やかに80万本が咲き誇る花菖蒲まつり